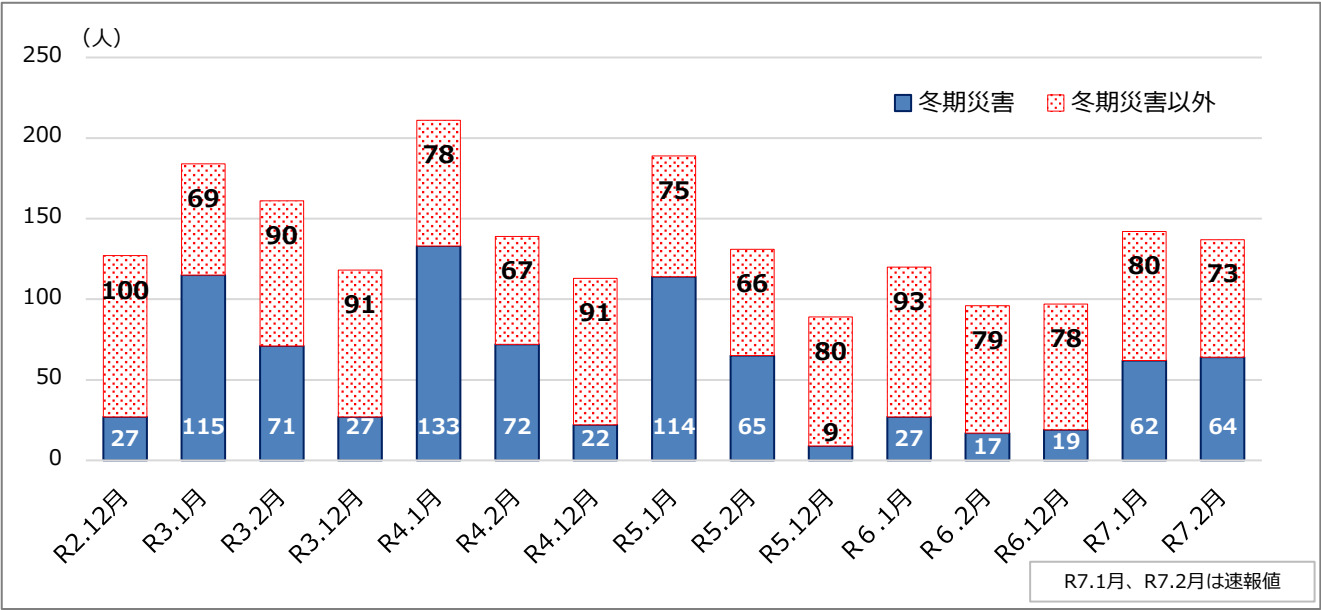


山形県内における冬期型災害発生状況

令和2年12月から令和7年2月のうち毎年12月から2月まで（以下「冬期シーズン」という。）の、凍結や積雪による転倒災害、墜落・転落災害、交通事故など冬期特有の労働災害（以下「冬期型災害」という。）のうち休業4日以上の災害発生状況は以下のとおりです。（新型コロナ関連を除く。）

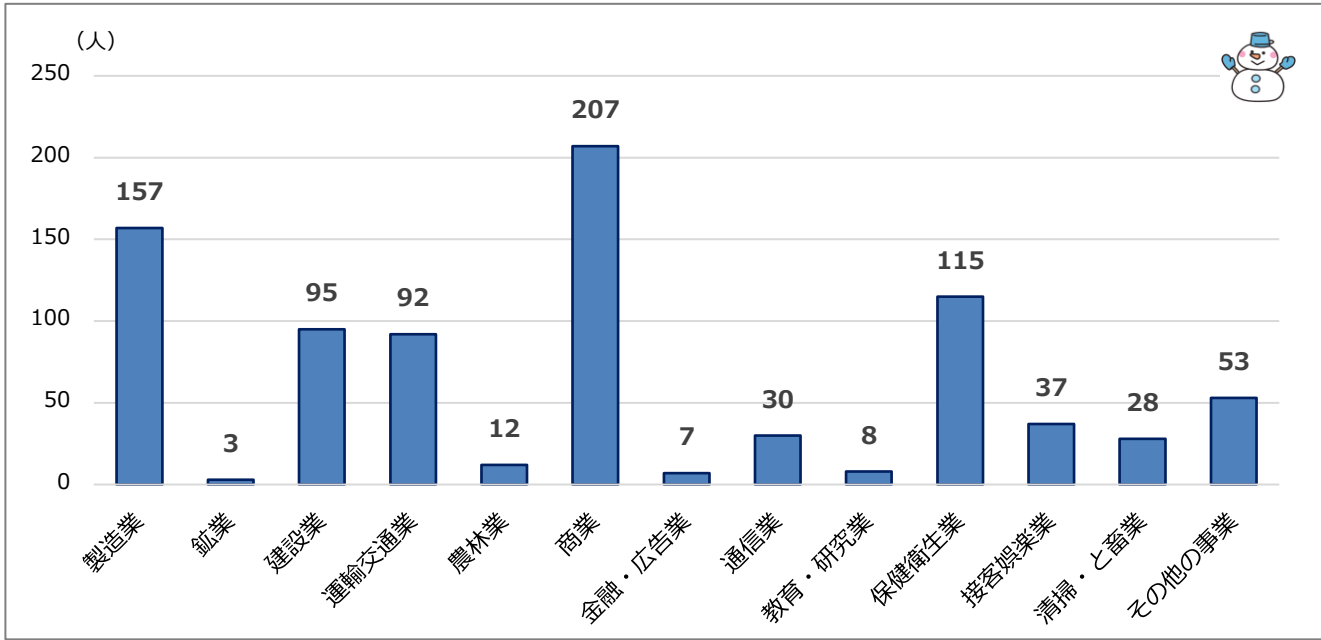
1. 月別労働災害発生状況

例年1月と2月に発生が多い。令和2年12月から令和7年2月のうち冬期シーズンにおける冬期型災害が占める割合（以下「冬期型割合」という。）は、全体の41.1%（844/2054人）であるが、令和7年1月における冬期型割合は43.7%（62/142人）、同年2月における冬期型割合は46.7%（64/137人）と平均より高くなっている。また、令和7年2月7日は12人、同年1月20日は9人など冬期型災害が集中して発生している日があるが、山形県におけるアメダスの記録ではいずれも氷点下となる真冬日であり降雪となっていた。



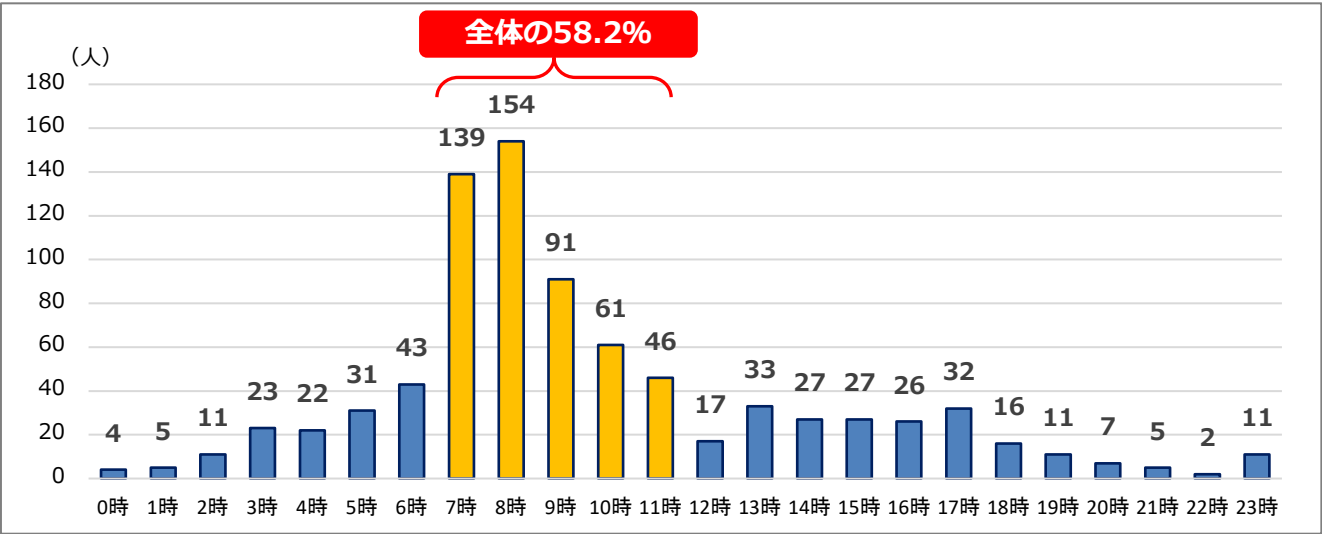
2. 業種別冬期型災害発生状況（過去5年間）

冬期型災害は「商業」が最も多く、次いで「製造業」、「保健衛生業」の順となっている。



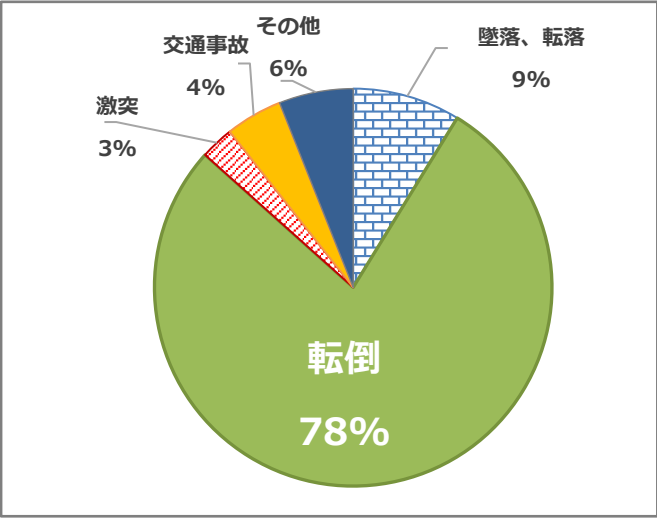
3. 時間帯別冬期災害発生状況（過去5年間）

冬期型災害は、7時台（全体の約17%）から8時台（同18%）、9時台（同11%）にかけて多く発生し、7時から11時までに発生した冬期型災害は全体の約58%を占める。



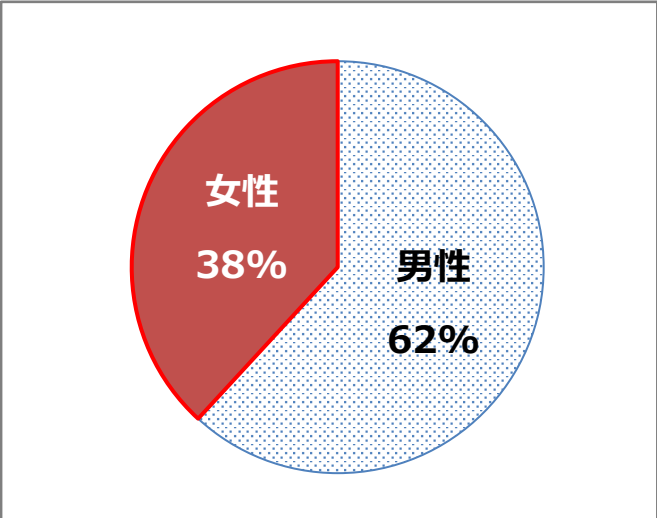
4. 事故の型別冬期型災害発生状況（過去5年間）

冬期型災害では、「転倒災害」が657人と全体の約8割を占めている。



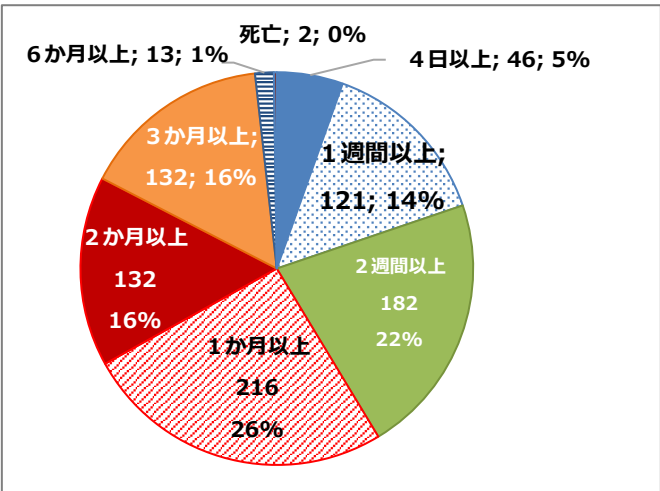
5. 男女型別冬期型災害発生状況（過去5年間）

男女別に分類すると、男性522人、女性322人が冬期型災害に被災している。



6. 休業日数別冬期型災害発生状況（過去5年間）

冬期型災害に被災した労働者の約6割が、1か月以上の休業見込となっている。



7. 年代別冬期型災害発生状況（過去5年間）

年代別にみると、50歳代の被災者が全体の3割と最も多く、また60歳代以上の被災者は全体の4割を占めている。

